

トルコ為替週報

2022 年 6 月 7 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去1週間の動き＞

(5月31日～6月6日)

USD/TRY: 16.3725～16.6010

TRY/JPY: 7.77～7.97 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、続落。対ドル、対ユーロで、リラは5月13日週以来、それぞれ4週連続(月～金の暦週)で年初来安値を更新した。ただし、並行した円全面安を反映し、この間、リラ/円は上昇している(注)。リラ売りの主因は、引き続き、経常取引に伴う実需のリラ売り超(リラ売り需要>リラ買い需要)と考えられた。31日発表されたトルコ4月貿易収支は、61.0億ドルの赤字。これは市場の予想に沿った水準のようにも見えたが、当該指標は、5月5日の時点でトルコ貿易省が「61億ドルの赤字」との速報値を発表していたので、その数字を追認したに過ぎない。単純に名目値を比較すれば、-61億ドルは、4月の赤字としては2018年来3年ぶりの規模。季節性の高い統計だから、月毎の数字を比較することにも意味はあろうし、2018年当時、5.0前後だったドル/リラの水準に鑑みれば、リラ安がもたらしたはずの対外競争力が、トルコ貿易収支に意味のある改善を及ぼしていない事実を確認したとも言える。3日に発表されたトルコ5月CPIも、市場予想は若干下振れたものの、もはや、当該指数に対する信頼の低下がリラ売り材料になった感がある。トルコ統計局の同指数算出担当者が、先月20日、5月CPI発表の「数日前」に相次いで辞任したとの報は、当該指数算出過程で外部からの圧力が掛かった可能性を想像させるし、同コアCPIが市場予想を上振れたにもかかわらず、総合指数が下振れた経緯は、足元燃料/食品価格の推移に鑑みて不自然にも感じられた。エルドアン大統領は、6日、「利下げを継続する」と宣言したが、これは、6日付現地紙が報じた週末のネバティ財務相の発言(「当面金利は変更しない」)とも矛盾した。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
5/31	7:00	貿易収支(USD)	4月	-6.11bn	-6.10bn	-8.17bn
	7:00	GDP(前年比)	Q1	+7.3%	+7.4%	+9.1%
6/3	7:00	CPI(前年比)	5月	+73.50%	+74.35%	+69.97%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう2週間の見通し＞

(6月7日～6月20日)

USD/TRY: 16.450～16.950

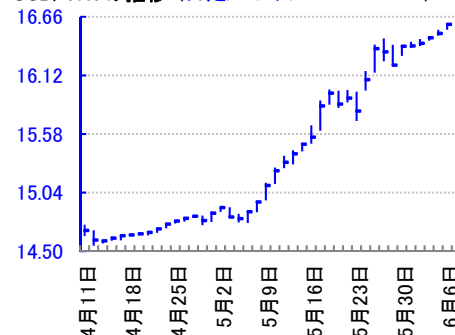
TRY/JPY: 7.70～8.05

向こう2週間のトルコ・リラ相場は、軟調推移継続を予想。上述の通り、現在までにトルコ経済指標に対する信頼は大きく揺らいでいるようにも見える。仮に、投資・金融市場が同国の公式経済統計に対する信頼を失いつつあるのだとしたら、同国に対する直接・証券投資に対し、将来に亘る大きな阻害要因となる恐れがあろう。トルコ貿易省が、貿易収支の速報値を公表するようになったのは、市場の予想を誘導する(予想を下振れる事態を回避する)目的があるものと推測できるが、同統計が悪化している事実は覆い隠せない。5月の貿易収支も、2日の時点で、107億ドルの赤字との速報値が発表されているが、確認されれば5月に限らず、単月の赤字としては史上最大となる。リラは、3日の欧州市場引け後に、不自然な上昇を見せたが、これまでの経緯を振り返って、トルコ中銀によるリラ買い(トルコ中銀による実質的な為替介入)だった疑いが濃い。他にも、リラの反応は読み取れなかったものの、この間、①トルコ当局が、居住者に対する、(世銀や欧州復興開発銀行などの)国際機関発行のリラ建債券の購入制限を検討中(3日)との観測や ②トルコ中銀によるトルコ国債担保要件の改定(6日)などが伝えられた。いずれもその狙いはリラ安抑制と考えられたものの、①は当該国際機関が債券発行で得たリラを空売りしているなどとはそもそも考え難いし、②は地場金融機関に対するリラ建国債需要促進という趣旨だろうが、リラ安抑制策としてはあまりにも迂遠な経路に感じられた。

＜向こう2週間に発表予定の主要経済指標等＞

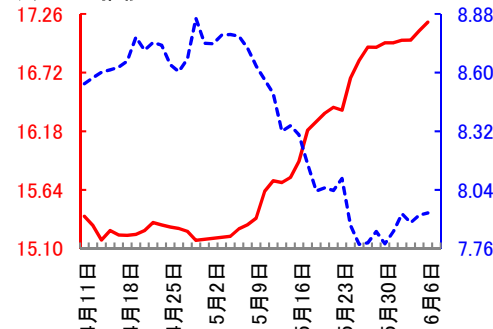
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/10	7:00	失業率	4月			+11.5%
6/13	7:00	経常収支(USD)	4月			-5.55bn
	7:00	鉱工業生産(前年比)	4月			+9.6%
6/15	8:00	財政収支(TRY)	5月			-50.2bn
6/17	7:00	期待インフレ率(翌12ヵ月)	6月			+33.28%
6/20	8:00	外国人観光客(前年比)	5月			+225.6%

USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



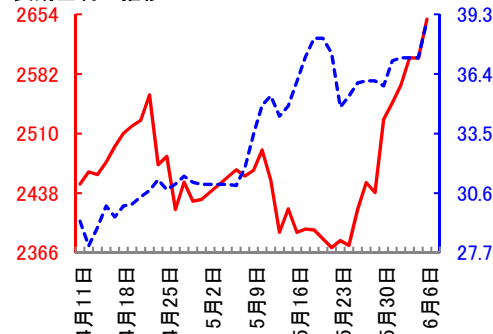
バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン17:00)



株式市場の推移 (ISE 100種指数)

長期金利の推移 (5年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q1	+7.3%
失業率	3月	11.5%
消費者物価(前年比)	5月	+73.50%
鉱工業生産(前年比)	3月	+9.6%
小売売上高(前年比)	3月	+2.5%
貿易収支(USD)	4月	-6.11bn
経常収支(USD)	3月	-5.55bn

＜お知らせ＞

筆者休暇のため次回の「トルコ為替週報」は6月21日を予定しております。ご迷惑をお掛けし大変申し訳ありませんが、よろしくご諒承くださいませ。

(注) 円安の主因は、黒田総裁(30日)、若田部副総裁(31日)ら日銀首脳が、相次いで、円安けん制や利上げに消極的な発言を繰り返したことと受け止められた

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。